

せたな町総合計画策定審議会「第2回産業経済専門部会」顛末書

- 1 日時 平成19年7月30日(月) 午前3時～
- 2 場所 せたな町役場第3委員会室
- 3 出席委員 5名
齊藤誠部会長、内田尊之副部会長、三上博則委員、奥村喜美雄委員、佐藤昌委員
- 4 欠席委員 5名
加藤始委員、正木孝義委員、光銭浩委員、二本柳均委員、稲船国晃委員、
- 5 せたな町出席者
道高副町長、久保教育長、小林瀬棚総合支所長
(事務局) 成田政策調整課長、福土課長補佐、吉田主任、白戸主事

6 会議の概要

(1) 前回協議事項の確認

議案の2ページ～4ページにより、意見等の概要について確認した。

各委員からの主なご意見と回答

農林業関係 農業経営

Q 個人農家の法人経営について、具体的な対策は。(前回欠席したので確認)

A 具体的な対策は決まっていないが、今後の大きな課題でありその対策の必要性から、農協と連携した対策を講ずることとしている。

水産業関係 漁業生産基盤

Q 生産基盤とは魚場造成だけでなく陸上施設も含め幅広い整備を指すものであり、そのように整理すべき。

A 検討個表での整理に基づき記述したものであり、計画本体にはご意見のとおりまとめたい。

(2) 計画本体枠組みの確認

これから計画本体の原案を作成するに当たり、計画全体の構成案について、議案の5ページ～6ページのとおり確認した。

全体の構成は、一般的に使われている内容を基本とし、基本目標の6つの柱は、合併時に作成しました新町建設計画と同様としております。

各委員からの主なご意見と回答

基本構想 人口の想定に関連して

Q 今後、人口は大幅に減少することが予想されるが、基本計画や実施事業に支障をきたさないか。

A 人口の減少は当然予想されるものであり、特に労働力人口の減少と高齢化が顕著であることから、それらを踏まえた取り組みが求められるものとする。

基本目標3「自然と共生する安全なまち」の中から

Q 「地域エネルギー」という表現は、一般的に使われているか。

A 一般的に用いられている。この場合の地域とは、その地域にあるエネルギー資源を指し、当町では風力発電など。総じて自然エネルギーとも言いますので、どの表現が適切か検討しまとめたい。

実施計画

Q 基本目標ごと3年間の実施計画と思うが、財政的な問題もあり特定の分野に絞り込んで重点的に実施することはできないか。

Q 総合計画なので全分野にわたり幅広く計画するのは理解するが、財政の実情も考慮して、地域の特性を生かし、特に基幹産業に焦点をあて集中的に力を入れることも必要では。

A 新しい町であり、まずはその基盤づくりが大事であると考えている。継続事業を中心に当然にして必要な事業を進めていくこととなる。これから様々な分野で必要な取り組みが検討され、後期5年に繋がっていくものと考えている。

その他

Q 総合計画は、どの町も内容はほぼ同じである。町の特色を出した計画にしてもらいたい。

7 今後の作業

今回で専門部会での協議を終了し、次回からは全体の審議会で計画本体の内容審査に入って参ります。

予定としては、8月末に「基本構想」を、9月末に「基本計画」と「実施計画」を審査していただき、10月に最終確認を経て答申し審議会での審議を終了することとしております。